

令和元年6月17日現在

機関番号：12102

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2018

課題番号：17K13868

研究課題名(和文)参加型調査によるセルフアドボカシー促進要因の解明に関する研究

研究課題名(英文) Research on elucidation of self advocacy promoting factors by participatory survey

研究代表者

森地 徹 (Morichi, Toru)

筑波大学・人間系・助教

研究者番号：50439022

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：全国8地域76名のセルフアドボカシーグループのリーダーから、セルフアドボカシーグループに関して、入ったきっかけ、行っていること、実施場所、役割、活動費、支援者の見つけ方、支援者がいて良かったこと、支援者がいて悪かったこと、楽しかったこと、困ったことに関して様々な意見を聞くことができた。これらの意見をまとめることにより、セルフアドボカシーを当事者主体で進めるために必要となる条件、受けるべき支援の性質、展開の手順や留意点、活動において考慮すべきことが明確になり、その結果をわかりやすい内容で冊子化して配布することを通してその知見の普及を図ることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

調査を通じてセルフアドボカシーを当事者主体で進めるために必要となる条件、受けるべき支援の性質、展開の手順や留意点、活動において考慮すべきことが明確になり、その結果をわかりやすい内容で冊子化して配布した。具体的には、全日本手をつなぐ育成会連合会全国大会京都大会でセルフアドボカシーグループに所属する知的障害当事者に冊子を配布した。また、各都道府県政令指定都市の育成会に冊子を送付し、それぞれ中で活動するセルフアドボカシーグループに配布していただくよう依頼した。これらのことを通じて、前述で得られた当事者主体でセルフアドボカシーを展開するための知見をセルフアドボカシーグループに広めることができた。

研究成果の概要(英文)：Various opinions were obtained from 76 leaders of self-advocacy groups in eight regions across the country regarding their groups such as motivation of admission, activities and its' associated cost, venue of meeting, role in the group, way of finding supporters, pros and cons of supporter's existence, enjoyable points and troubles. Based on clarification of requirements for self-advocacy to be promoted led by the parties concerned, nature of supports to be provided, procedure and points of attention for development, and what should be considered in activities achieved by consolidating these opinions, such knowledge has been spread by distributing a booklet prepared from the results.

研究分野：社会福祉学

キーワード：セルフアドボカシー 参加型アクションリサーチ

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

セルフアドボカシーとは、知的障害のある人が自ら声をあげ、自ら決定するための一連の活動を指し、北欧や北米を中心に1970年代以降全世界的に広がりを見せている。また、日本では本人活動と呼ばれ、1990年代以降に全国的に展開されてきている。このセルフアドボカシーについて、我が国の研究動向の中では支援者との関係性についての問題点が指摘されている。それは活動において、知的障害当事者と支援者との間に上下関係が生じ、特に活動の初期の段階においては様々な権限が支援者に集中するため、支援者の意見が活動に大きく影響を及ぼすというものである。一方、知的障害当事者が主体的である場合に本来の趣旨に沿ったセルフアドボカシーが展開されることも報告されている。

このように、支援者に権限が集中することは、セルフアドボカシーの趣旨となる知的障害当事者自身による権利主張や意思決定の妨げにつながると考えられる。そのため、今後の日本におけるセルフアドボカシーの展開を考えると、適切な支援が提供されることを前提としつつ、知的障害当事者を中心とした活動の展開が図られることが必要になるということが言える。しかし現状として、日本において研究を通じたそのための方法論の検討が行われていない。そのような状況の中、知的障害当事者の自主的な関与が必要となるセルフアドボカシーの性格を考えると、前述のような研究を通じた方法論の検討については、セルフアドボカシー活動を実際に行っている知的障害当事者同士によってなされることが望ましいと考えられる。

2. 研究の目的

本研究では、知的障害当事者の参加による参加型アクションリサーチの実施を通して、セルフアドボカシーを当事者主体で進めるために必要となる条件、受けるべき支援の性質、展開の手順や留意点、活動において考慮されるべき点を明確にし、そのことを踏まえて知的障害当事者主体によるあるべきセルフアドボカシーの展開方法について知的障害当事者とともに検討を図った上でその知見の普及を図ることとした。

3. 研究の方法

知的障害当事者の参加による参加型アクションリサーチの実施を通して、セルフアドボカシーを当事者主体で進めるための要素を明らかにするために、以下の通り調査を実施した。なお、研究協力者として協力を得る知的障害当事者は、同様の研究の研究協力者としての経験を多数有している。また、全国のセルフアドボカシー活動におけるリーダーとして国や都道府県・市町村及び関係団体の各種委員を歴任しており、全国各地にセルフアドボカシーに関するネットワークを有している。

調査項目の設定

知的障害当事者中心によるセルフアドボカシーの展開において検討すべきだと考えられるインタビュー調査項目について、研究協力者として知的障害当事者の協力を得た上で具体的な調査項目を設定することとした。その際、調査項目の妥当性や表現の難易度について適宜研究協力者である知的障害当事者に確認を行うこととした。その結果、「どうやって本人活動会に入りましたか」「本人活動会ではどんなことをしていますか」「本人活動会はどんな場所でやっていますか」「本人活動会の中ではどんな役割がありますか」「本人活動会の活動で使うお金はどうしていますか」「支援者はどうやって見つけていますか」「支援者がいて良かったことは何ですか」「支援者がいて悪かったことは何ですか」「本人活動会で楽しかったことは何ですか」「本人活動会で困ったことは何ですか」の10項目を調査項目として設定することとした。なお、ここで出てきた本人活動とは日本におけるセルフアドボカシーの呼称である。

調査対象の選定

全国を8つの地域（北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州）に分けた上で、それぞれの地域ごとに4名ずつセルフアドボカシーグループのリーダーを調査対象者として選定することとした。その際、調査対象者とするセルフアドボカシーグループのリーダーはセルフアドボカシーの本来の趣旨に沿った本人中心による活動を行っているグループから選定することを条件とし、その条件のもとに研究協力者である知的障害当事者に選定を依頼することとした。

調査の実施方法

調査は研究協力者である知的障害当事者と各調査対象地域に出向いて行うこととした。そして、それぞれの地域で本人中心による取り組みを行っているセルフアドボカシーグループのリーダーである知的障害当事者に対して研究協力者である知的障害当事者が調査を行う形式を取ることとした。その際、調査はインタビューガイドを用いた半構造化面接をグループインタビュー形式により実施することとした。また、調査対象者の負担を考慮し調査は各グループ概ね60分を目途に実施することとした。なお、調査に際しては対象者に確認の上ICレコーダーで調査内容を録音することとした。

調査内容のまとめ方

グループインタビューの結果については記録したデータをもとに逐語録を作成した上で MAXQDA2018により質的分析を行い、そのことを通してセルフアドボカシーを当事者主体で進めるための要素を明確にした。その際、研究協力者である知的障害当事者の意見を組み入れつつ分析を進めた。また、分析終了後に分析結果を研究協力者である知的障害当事者に提示し、意見を募った上で適宜内容の見直しを行った。

4. 研究成果

セルフアドボカシーグループの代表者2名に研究協力者として研究に参加してもらい、調査対象地域及び調査項目についての検討を行った。その結果、平成29年度では北海道、青森、福島、茨城（2か所）、埼玉、神奈川、徳島の計8か所が調査対象地となった。調査の実施に際して、調査項目は前述の2名に原案を出してもらい、それを踏まえた協議の結果10項目により構成した。その上で、セルフアドボカシーグループのとりまとめ組織の1つである大阪手をつなぐ育成会の担当者に研究実施についての承諾をいただき、研究倫理審査を踏まえた上で9月23日から2月11日にかけて上述の8か所において52名のセルフアドボカシーのリーダーに対してインタビュー調査を実施した。なお、インタビュー内容については調査対象者の許可を得た上でICレコーダーで録音し、録音データについては逐語録を作成した上で MAXQDA2018により内容の整理を行った。その結果、セルフアドボカシーグループのリーダーから、会に入ったきっかけ、会で行っていること、会の実施場所、会における役割、会の活動費、支援者の見つけ方、支援者がいて良かったこと、支援者がいて悪かったこと、会において楽しかったこと、会において困ったことに関しての意見を明確化することができた。

また、平成30年度では前年度に引き続きセルフアドボカシーグループの代表者2名に調査者として研究に参加してもらい、6月17日から9月27日にかけて広島県、富山県、大阪府、福岡県の4か所において24名のセルフアドボカシーのリーダーに対してインタビュー調査を実施した。これらの調査結果と平成29年度の調査結果により、セルフアドボカシーを当事者主体で進めるために必要となる条件、受けるべき支援の性質、展開の手順や留意点、活動において考慮すべきことが明確になり、その結果を冊子化して配布することを通してその知見の普及を図ることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年：

国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究協力者

研究協力者氏名：奈良崎 真弓

ローマ字氏名：Mayumi Narazaki

研究協力者氏名：横山 正明

ローマ字氏名：Masaaki Yokoyama

研究協力者氏名：角田 辰雄

ローマ字氏名：Ttsuo Kakuta

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。